【普通科】　３年次　【必修（選択）】科目「子どもの発達と保育」授業のシラバス

１　概要

教科名	家庭科	**科目名**	子どもの発達と保育	**単位数（コマ数）**	２単位（７０コマ）
科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を養う。				
教科書（出版社）	子どもの発達と保育新訂版　（実教出版）		**副教材（出版社）**	子どもの発達と保育新訂版学習ノート　（実教出版）	

２　学習の方法

⑴　予習について

教科書や学習ノートを活用し予習を行ってください。関連するニュースや本などを見て、社会の動きにも目を向けると良いでしょう。

⑵　授業について

座学の知識を基に実習が行われます。日々の座学授業でしっかりと知識を身につける必要がありますので、分からないことはその場で質問するなど積極的な姿勢で臨んでください。配布されたプリントはファイルにまとめて自己管理を徹底しましょう。

⑶　復習について

復習しやすい環境を整えるためにもノートやプリントの書き漏れがないよう心がけ、紛失しないようにしましょう。

〈学習アドバイス〉
まずは、「子ども」に興味を持つことが大切です。そして、「なぜそうなるのか？」と思考を深めることが理解度向上につながります。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
②　思考・判断・表現	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
③　技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。
④　知識・理解	子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。

⑵　評価の方法（以下観点①～④は「⑴　評価の観点」と対応する）

評価材料 / 観　点	割合	定期考査・確認テスト 実力テスト		実習態度	提出作品	休業中の課題	グループワーク	発言・発表	提出物の内容
⑤　関心・意欲・態度	２０%			◎	○			◎	
⑥　思考・判断・表現	２０%						◎	○	◎
⑦　技能	３０%	○	技能テストを行います。		◎	◎			
⑧　知識・理解	３０%	◎	授業で扱った内容から出題します。			○			◎

〈担当者からのメッセージ〉

●学習ノートやワークシートの記入漏れ・提出忘れがないように気をつけましょう。

●常に自分の考えをもち、それを表現できるようにしましょう。

●実習にも積極的に取り組むことが大切です。

【普通科】　３年次　【必修（選択）】科目「子どもの発達と保育」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	ガイダンス					
	１章 子どもの発達の特性	6	１節　発達と乳幼児期の意義 ２節　発達と保育環境 ３節　児童観と発達観	① ② ④	①乳幼児期の子どもに関心を持ち、乳幼児期の特徴理解に主体的に取り組むことができる。	
5	２章 子どもの発達の過程	20	１節　子どもの発育 ２節　子どもの精神発達 ３節　人間関係の発達	①④ ④ ②	②発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べることができる。 ④子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解できる。	
6						前期中間考査
7						
	３章 子どもの生活	16	１節　生活と養護 ２節　子どもの遊び ３節　生活習慣の形成 ４節　健康管理と事故防止	③④ ③④ ③④ ③④	③幼児の食事の特徴をふまえて，子どもの弁当を作ることができる。 子どもの安全と快適さという視点から必要な育児用品を選択することができる。 ④子どもの食生活や衣生活、健康に関する知識を身につけている。	
8						
9	４章 子どもの保育	16	１節　保育の意義と重要性 ２節　家庭保育と集団発育 ３節　保育の方法	① ②④ ③	①子どもの保育に対する関心と課題意識を高めている。 ②子どもの心の育ちを考えて，親の子どもへのかかわり方を説明することができる。 ③保育実習において安全に配慮し、子どもと適切にかかわることができる。 保育実習の記録をまとめ、成果を発表している。 ④集団保育の意義と形態、保育内容の要点をまとめることができる。	後期中間考査
後期 10						
11						
	５章 子どもの福祉	12	１節　子どもの福祉 ２節　子育て支援	①④ ②	①子育ての現状をふまえて，これからの子育て支援を考えている。 ②子どもの幸せとは何かを考えることができる。 児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べることができる。	
12						
1						
		計 70				

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※　授業計画は進度により前後することがあります。